



冬ごもり こらえこらえて 一時に 花咲きみてる 春は来るらし

望東尼

「冬の寒い間、閉じこもってじっとこらえていましたが、一斉に花が咲き満ちる春が来るようです・・・」 この言葉は私たちに、どんな困難があっても頑張れとエールを送ってくれるようです。

野村望東尼さんは福岡市に生まれた人です。防府にはわずか40日あまりの滞在でしたが、明治維新の先駆者として活躍した高杉晋作さんをはじめ勤王の志士たちの慈母と呼ばれるようになりました。望東尼さんのお墓は桑山にあります。



「歩きスマホ」は止めよう

「子どもにスマホを持たせるときには約束事を決めてから」「スマホに子育てを任せないように」「スマホよりも子どもに目を向けて」等・・・これまで「センターだより」でスマホの使用について、いろいろな提案をしてきました。

今回は「歩きスマホ」について考えてみましょう。

市内を巡視中に、スマホを操作しながら歩いている高校生に声をかけることが多いです。最近、特に多くなっているように思います。事故にあわなければよいがととても気になります。

周知のとおり、スマートフォンを操作しているときは、画面に集中するために、視野が極端に狭くなります。そのため周囲の危険に気づくことができず、重大事故につながる場合があります。「歩きスマホ」には危険が伴うのです。

防府市内では、まだ「歩きスマホ」による事故の話を書かないのですが、全国的にみると事故が多く起きています。いくつか紹介をしましょう。

- ・スマホを扱いながら歩行中、ボールにつまずき転倒し、ブロック角で顔面に受傷。
- ・スマホを操作しながら歩いていた中学生が駅のホームから転落。
- ・スマホを操作しながら歩いていた男性が踏切に進入し、電車にはねられて死亡。等

このように、スマホを操作しながらの事故で死亡したり、救急車で病院に搬送をされたりした人が多いのです。また、自分は怪我をしなくても他人にぶつかり怪我をさせてしまう事故も多くあります。

警察の発表では、平成28年度中にスマートフォン等の画面を見たり操作したりして起きた事故（画像目的使用の事故）は927件、うち17件が死亡事故となっています。防府市内では、このような事故や事件が起きないようにしなければなりません。

あなたの可愛い子どもがこのような痛ましい事故に会わないように、また、加害者とならないように、子どもと話をしてみませんか。また、「歩きスマホ」は子どもだけでなく大人がしている姿もよく見かけます。子どもには「大人がしているのだからいい」という逃げ道があります。私たち大人が子どもによい見本とならなければなりません。

家族でもう一度、スマホの使用について考えてみましょう。

ちなみに、携帯電話各社では、「歩きスマホ防止アプリ」を配信しています。これを活用することも考えてみられてはいかがでしょうか。

新たに、年度が替わるということで子どもさんにスマホの購入を考えておられるご家庭がありましたら、ぜひ使い方についての約束事を決められてからにしてください。

問合せ先：防府市教育委員会生涯学習課 青少年育成センター（23-3013）